

2021年度 成果

自治体・スポーツチーム・企業・NPOなどなど多種多様な団体との連携により、海ごみゼロウィークを中核としたごみ拾い活動を実施。CFB事業に参加することにより海岸はもちろん、それ以外の場所でもごみ拾いを行う事で、海がきれいになることをあらためて体験してもらった。また、昨年度中止となってしまったねぶた祭りのとのコラボについても今年度再開。リアルイベントではなく、オンラインのイベントとはなってしまったものの、配信には、延べ1万人以上の方に視聴していただき、県内外へCFBねぶたを発信することができた。企業連携・学習教材開発による出前授業など、各自治体・教育機関などの協力・理解があり実施できた。
ごみ拾い参加者数 計11,270名



スポーツチーム連携モデル

5月30日の「ごみゼロの日」に合わせ、JFLラインメール青森とのCFBコラボマッチを開催。試合前には、海洋ごみクイズを交えたゴミ拾いも実施した。また、オリジナルステッカーも作成した。



ねぶた祭り連携モデル

コロナの影響で、今年に関しては、祭りが代替イベントになったが、ねぶた師の熱い思いと連携し制作できた。ねぶたはネット配信を通し、延べ1万人以上の視聴者に届けることができた。



スポGOMI連携モデル

今年もスポGOMI甲子園大会を開催！今回は、過去最多の22チームの参加。途中ゲリラ豪雨にあったが、青森の合浦公園周辺のごみを集めた。



地域企業連携モデル

青森県を代表する硝子工芸製造会社北洋硝子（株）と連携し、青森の海をイメージした盃セットを製造。1セット5000円（税別）という高価格帯であったが、ネットや店舗販売を通して、250セット超が売れ好評だった。

その他：学習教材開発企画・商品開発企画を実施した。

メディア露出



5/30「県内ニュース」



5/31「わっち！！ニュース」



7/26「わっち！！ニュース」



10/16「チョコっと耳よりっ！！」
その他：動画8本実施

2021年度の課題とこれからの展望

ゴミ拾いをイベント化することも大事だが、イベントだから拾う。という形態ではなく、日ごろから拾うという常態化することが必要と考えている。そのためにも、子どもたちに、海洋ごみ問題に興味を持ってもらうため、青森県教育委員会や各自治体の教育委員会との連携をする必要があると考える。また、青森ねぶたという大型コンテンツとのコラボを柱としてきたが、4年目となる来年度は新たな事業モデルにチャレンジし、若年層を中心としたすべての層へ向けた海への意識改革を行い、県民のちょっとした行動によって海のごみを減らすことができる、海の未来を変えることができるということをもっと意識をさせていくよう発信していく。